

令和元年度事業報告書

熊本県天草市旭町 246-2

社会福祉法人 青豊会

理事長 洲崎 豊裕

平成27年度から子ども子育て支援新制度が導入され、保育制度が大幅に変更された。本園では、入所希望の増加に応えるために、平成27年度から定員を10名増やし70名とした。平成30年度の入園園児の状況は、平成30年度と同様に、年度当初より定員を充足し、年間を通じて、定員を上回る入所児童数で推移するなど好調な状況にあった。保育制度が変わり、保護者の望む保育園像も変化し、保育園の果たすべき役割も多様化しているが、今後とも弾力的、積極的に対応していきたい。

保育の内容においては、「モンテッソーリ」保育理念に基づく保育を継続し、保護者、家庭、地域社会、保育者が一体となって保育するという目標を達成することができた。

また、延長保育、乳児保育、障害児保育、一時保育などの多様な保育ニーズにも対応している。

地域子育て支援センターについては、天草市の指導により、週3日間、1日5時間の開館としている。地域子育て支援センター「ふたばこども館」における活動は、地域における認知も深まり、着実に浸透している。特に、毎週火曜日、木曜日に開催している、親子で参加できる「親子の広場」には、担当者の工夫をこらした企画もあり、佐伊津町地区だけでなく、本渡北地区、南地区、その他の地区からの参加を含め、毎回10組、30人を超える程度の親子の参加があり、年間でも1600人程度の利用があるなど盛況であった。育児相談についても、来館しての相談や、電話での相談があっっていて、お母さんの育児に対する不安の解消に役立っている。また、地域住民がより利用しやすいように、本戸公園や、佐伊津地区コミュニティセンターなどに出かけての、出張保育にも取り組んだ。毎年、その他の地域活動として、保育園の保護者や一般の子育て家庭を対象に行っていた、人形劇公演などの一部の事業については、コロナウィルスの拡大防止の観点から中止したのもあった。

「ふたばこども館」の整備により、育児相談、学童保育、一時保育等、ニーズの多様化への対応がより積極的に可能となる体制ができた。また、育児講座、発表会、卒園式などの会場として利用できるため、保護者にも好評である。

学童保育として取り組んでいた低学年児童の受入事業については、佐伊津保育園に佐伊津学童クラブを整備したことにより本園としては昨年度から行っていない。

環境面では、園舎改築時に廃棄していた園庭の芝生を2年ぶりに張り替えた。子どもたちの戸外活動の活発化や、転んでもケガをしにくいなどの効果が期待される。芝生化により地面からの照り返しが少なくなり、温暖化や、熱中症対策といっても良い影響が考えられる。トンボなどの昆虫も多くなる等、自然環境面での効果もあった。また、夏季には、苦瓜などの栽培によるグリーンカーテンに取り組み、すだれやよしずを活用して、エアコンの利用を抑制するなどして、エコ活動にも取り組んだ。

地域との関わりでは、佐伊津地区振興会の行事等にも積極的に参加した。従来行われていた地区振興会主催の夏祭りは諸般の事情で今後開催されなくなったが、「佐伊津町ふるさと祭り」に参加し、天草太鼓や歌、遊戯等を披露し、地域住民、お年寄り、保護者に喜ばれた。町民運動会では、子どもたちも張り切って遊戯やバルーンなどの演技を披露し、地域住民の方に喜んでもらうことが出来た。10月には、佐伊津地

区振興会主催の「ふれあい交流会」にいちよう・ふじ組の園児が参加し、歌やゲームなどで地域のお年寄りとの交流を楽しんだ。

保育園の夏まつりは台風の影響で開催できなかったが、園児のみの参加で小規模な夏祭りの開催となった。保育園で9月に開催する運動会や、12月の「クリスマスおゆうぎ会」には、敬老席を設けるなど、地域住民の方も参加しやすいように配慮している。運動会は保護者の協力も絶大であり、素晴らしい大会になっていると思う。

幼保小連携活動の一環として、小学校の相撲大会、運動会等にも参加している。

中学生や高校生のボランティアによる保育園での体験学習も引き続き行っており、学校及び保護者からの関心も高い。また、保育士養成校からの保育実習生の受け入れも行っている。

地域との関わりについては、保護者との連携を深めながら今後も継続していきたい。

毎年度、保護者を対象に「一日保育士体験」事業を実施していたが、今年度は参加者がいなかった。「保育園における子どもの活動を見ながら、自らが保育士としての体験を通して、子育てにかかわることの幸せと、親としての役割を実感する。」ことを主な目的としている本事業は、その意義も大きいと思われ、来年度以降も全保護者に体験してもらおうよう継続して実施していきたい。